

蓬萊町だより

日会部 町部 30号
蓬萊文 7月 16年
成行集 6年
平発編 16年

私説 資長太田道灌の生涯 (その四)

日本随筆家協会々員 上野 静

道灌は足輕隊を中心に中村、樋口の植樹は立派に成功、改めて江戸城内に花開いた文化の著しいルネッサンスに大いに感動、満足した。集九が江戸城を去って四、五十日が経った某月、主君・上杉定正から道灌に先口、招待の返礼に答え、招待するという書面が舞い込んだ。重臣達は道灌に直ちに断るように進言した。「定正は油断のできない男で危険だ」というのだった。

しかし、道灌は「先日のお礼がしたいと明快に書いてある。政治と文学は別である。定正も歌心に深く、文学にも明るい人である。俺を瞞し討ちをするようなことはあるまい。若し、殺れば世間から批難されるのは彼だけだ。それが判らぬような定正ではない」と明らかに言い切った。先達で、定正は招待に応じ、単身、来てくれた。アノ時、殺そうと思えば簡単だった。それを止めてくれたのは歌だった。文学だったのだと道灌は明るく笑い爽やかだった。俺も文学の心を以って応えなければならぬと決意を語った。

重臣達はそれでも「定正は何を考えているか判らない油断の出来ない危険人物だ」と強く引き止めた。道灌は「お前達が俺の身を案じてくれるのは有りがたい。が俺は行く。行かないと俺は天下に笑われる。これは正に歌人上杉が歌人太田を招いたのだ。俺は行く義務がある。柳も関東の争乱の原因は俺が文人なら文人に、武人なら武人に徹すべきで両者を共有したことが不味かったのかも知れない。それにしても俺がそんな争乱を起すような人間でないこと位は多くの武人達は知っている筈である。俺の真意が理解できないのだから。自分の天命を各人が自在に操るのは自由だし、天命に逆らうことでもない。

アレやコレを思うと俺はお先真ッ暗で何となく妖雲が漂い、頭の中を過った。しかし、自殺は嫌だ。死ぬなら人に殺された方がよい。定正は俺を殺する積もりでいるのかも知れない。道灌は重臣達がいうように上杉に殺意があることは天命のように感じていた。

それは上杉に取っては輩下の道灌が民衆に絶大な人気があり、知略縦横で文学に長じた武将だ。何時、俺の地位を乗っ取るか判らない。猜疑心の強い定正は道灌を利用しながら特別な目でみていた。「道灌は何時かは消さなければならぬ男だ」と定正は心に秘めているような気風だった。道灌は定正の心理をピジュアルに透視していたのである。

定正は文学にこと寄せて掛けばアノ男は必ずアノコノコやって来るに違いない。定正は道灌は武将だが純真で文学とはそういう魔力が

あるものだと見透かしていた。樋口、中村の家臣や重臣達は親方の深いヨミは判らなかつた。終に道灌は周囲の絶対反対を押し切つて単身、出かけて行つた。

上杉定正は当然の如く上機嫌でニコヤカなスマイルで歓迎してくれたのである。

「この間の江戸城の酒宴は大変楽しかったぞ。お前の歌と舞いは立派だった。集九殿はその後、元氣かな」などと莞爾に語りかける定正に道灌は心が緩んで行つた。「集九殿は大変元氣で今、暫らく、里に帰らないといっている」と告げた。「アノ時は態々お越し頂いて有りがとうございました。私は固より、家臣・同も上杉のご恩情に胸が温かくなつたといつておりました」と道灌は丁寧に敬礼を述べた。

定正は「お前の酒宴は新しい別館でやろうと思つている。どうだ。その前に風呂でも入つては」と誘導した。道灌は「有りがとう」といつて別館に向い、風呂に入つた。道灌の心は和み、緊張は解れて行つた。定正の対応が温情に溢れていたからだ。しかし、道灌は過剰待遇とも思ひ「彼は本気で待遇しているのだらうか」と薄気味悪く、疑心不安だつた。

道灌は何とはなしに不安が頭の中を過つた。その瞬間だった。湯上ると突然、一人の武士が長刀を振りかざし、入つてきた。

「畜生ッ！ やはり、そうだったのか」と道灌は素ッ裸で武器はない。手当り次第、湯桶を掴んで応戦した。忽ち一刀を浴びてきた。道灌の頭の中にはニンマリ笑つてゐる定正の

顔が浮んだ。「お前は何者だ」と斬り付けた武士にいった。武士は「俺は曾我兵庫だ」と明瞭に言った。道灌は名前だけは知っていた。日頃、樋口、中村の家臣が上杉定正の家臣の中でも道灌に好意を持っていると言った男だったからだ。併し、好意どころか、刺客として今、俺を殺そうとしている悪党だ。曾我は道灌の無念と憤りの物凄い形相をみて「お許し下さい」といった瞬間、道灌めがけて滅多打ちに数ヶ所を打ち捲った。全身血だらけの道灌は風呂場に倒れ込んだ。凄絶な修羅場だった。曾我は最後の一刀で止めを刺した。気丈な道灌は最後まで大声で「卑怯者奴！これで扇谷上杉家は滅亡だ！」と叫び続けた。(道灌あつての上杉家だったからだ) 道灌はかねてから秘かに思っていた通り、主君、上杉定正に暗殺されたのだった。悲しみの江戸城は花一パイの美しい里の文化の漂う平和のシンボルを失った。稀有の文武両道に通じた一代の英雄、道灌の悲惨な最後だった。享年五十五才。

太田二百石春苑道灌大居士 合掌

戦国の群雄達が眠る蓬々たる武州の草原に設えた砦城の中に一個の小さい卒塔婆が秋風に吹きつけられて立ち並んでいた。

定説に依ると道灌の遺骸越生の洞昌院に埋葬されたというが諸説紛々として定かでない。

道灌は当時の武士の風習として生前に書いていた辞世の句を残していた。

かかる時、さこそ命を惜しからぬ
かねてなき身と 思い知らむは

道灌の亡きアト、強大な武力を誇る扇谷上杉顯定と同系の上杉定正は当然の如く江戸城の乗とりで争った。上杉顯定は道灌の子、資康を味方につけ、父の仇討を助けることに意を傾けた。顯定と定正は再三に亘り、高見方原などで戦火を交えた。人望の高かった道灌を謀殺した怨みを持つ、多数の武士達や、また旧道灌軍の足柄兵団などは挙つて顯定に味方にした。定正はかねてから敵に回していた氏、素姓の判らぬ北條早雲と名乗る伊勢新九郎を誘い、味方につけて再び、高見方原で正面衝突の拳に出た。しかし、交戦の真ツ只中で定正は落馬して敢えなく急死した。仁徳に厚い道灌を瞞し打ちした天誅だったのかも知れない。

そのアト、顯定は道灌の遺児資康を江戸城内の香月亭の一角を領有させ、自らは江戸城を接収、城主となった。

しかし、扇谷上杉軍団もその後十年近く君臨したが永正十五年(1518)北條氏に乗っ取られて終った。北條氏は豊臣秀吉に滅され、徳川家康の代になった。彼は道灌の孫、資高に五百石を与えて優遇、自らは江戸城主となり、文字通り三百有余年に及ぶ徳川幕府の基礎を固めたのである。十五代將軍、徳川慶喜は大政を奉還、王政復古と共に江戸を東京と改名、天皇は京都御所を出て東京の宮城(旧江戸城)に入洛、東京奠都は完結、今日に及んだのである。仁徳には厚い太田道灌は茲に有終の美を飾ったのである。

閑話 休憩

高田の里では道灌を慕う国柄の娘、七重・八重(紅皿・欠皿)の二人は優しかった。道灌の在りし口を偲び、何時までも、長々と念佛を唱え涙にくれていた。曾て江戸城の道灌に決戦を挑んだ名門の豊島軍のリーダー泰経の娘、美女と謳われた照姫が家宝の三宝を身につけ、金の鞍の馬に跨り、幽翠明眉の山峽の地、三宝池に飛び込んで水死した。水底には今も金の鞍が沈んでいるという伝説が残っている。道灌の樋口、中村の二人の家臣は三宝池の池畔を駆け回り、主の道灌の愛唱歌を物悲しく唱い続けたのだった。



JR日暮里駅前騎馬像

道灌の代表作詩

わが庵は 松原続き 海近く

富士の高嶺を 軒端にぞ見る

憧がるる 人の心の春ごとに

色たち まさる 山桜かな

露おかぬ かたもありけり夕立の

空より ひろき 武蔵野の原

太田道灌は文武両道に長けた武将だった。江戸城を築いた名築城家でもあった。同時に港湾を整備、七百有余年前の往昔に産業の振興、道徳浄化、学問の奨めに励み、近代文化ルネッサンス東京の基盤を築いた先駆者だった。東京都では道灌の数々の偉業を讃え、歴史に残る永遠のメモリアルとして現在、都庁前と新宿中央公園に馬上豊かな道灌の銅像を建てて、人間像を偲ばせている。

参考文献 文京区立鷗外国図書館 蔵書

町会活動の概要

平成十六年十一月から
平成十六年五月まで

総務部

15年 11/1 根津神社
三百年遷座記念準備委員会
向丘地区連合町会長会議

12/2 定例役員会、御苦勞会(21名出席)
12/23 歳末夜警(〜29日まで)
12/25 新年門松ポスター配布
16年 1/16 町会連合会新年顔合わせ
「於 区民センター」

4/3 予算編成会議

4/10 部長会

5/25 祭礼準備会(7名出席)

6/3 平成15年度定期総会(於かねこ)

婦人部

15年 11/19 駒込母の会研修見学会

12/1 「於警察学校(深大寺)」
歳末地域助け合い募金
二七三件 二〇四、八四〇円
ご協力有難う御座いました。

12/21 婦人部定例会懇親会(15名参加)

2/25 つつじ祭り婦人部会

3/6 もちつき準備 (5名参加)

3/15 赤十字奉仕活動

4/13 交通安全運動「於かねこ前」
「於くすの木の郷」
(10名参加)

4/27 つつじ祭り甘酒茶屋当番
(18名参加)

5/1 赤十字募金
二四二件 一七四、六〇〇円
ご協力有難うございました。

5/20 婦人部会(18名参加)

交通部

16年 1/9 駒込交通安全協会新年会
反省会(11名参加)

3/17 春の交通安全運動 15日
(11名参加)

4/6 駒込交通安全協会総会

5/17 駒込交通安全協会総会

防犯部

15年 12/5 町内パトロール
(12月9回)小山氏・鈴木氏

16年 1/6 町内パトロール
(1月8回)小山氏・鈴木氏

1/15 駒込防犯協会新年会

3/21 春の地域安全運動
(5名参加)

防火部

15年 11/11 防火の集い
蓬萊町会及び名取氏
感謝状受賞

15年 11/29 緑の大切さを知ろう
「於駒本小学校」

青少年地区対策委員会

11/30 向丘町会連合まつり
「於誠之小学校」

12/14 行事「ケーキ作り」
小川さん一家5名

16年 2/2 新年顔合わせ「於向丘会館」

16年 1/12 成人者記念品贈呈(7名)

3/7 もちつき大会「於真浄寺前」

3/20 新入学児童 お祝品対象者(4名)

4/1 新入学児童記念品贈呈(5名)

文化部

高畑 道子 様(八二才) 向丘 2 | 17 | 2

原 富子 様(八八才) 向丘 2 | 20 | 17

小川 義信 様(八〇才) 向丘 2 | 17 | 18

山口 容子 様(七四才) 向丘 2 | 25 | 4

神保 三郎 様(八三才) 向丘 2 | 18 | 7

青木 静江 様(八八才) 向丘 2 | 35 | 6

寺岡 静江 様(七六才) 向丘 2 | 13 | 1

16年 1/12 成人者記念品贈呈(7名)

3/7 もちつき大会「於真浄寺前」

3/20 新入学児童 お祝品対象者(4名)

4/1 新入学児童記念品贈呈(5名)

16年 1/12 成人者記念品贈呈(7名)

3/7 もちつき大会「於真浄寺前」

3/20 新入学児童 お祝品対象者(4名)

4/1 新入学児童記念品贈呈(5名)

16年 1/12 成人者記念品贈呈(7名)

蓬 萊 町 会
平成 15 年度収支決算報告書
決算期間 自 平成 15 年 4 月 1 日～至 平成 16 年 3 月 31 日

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	決算額	摘 要	勘 定 科 目	金 額	摘 要
前期繰越金	461,709		総務部 渉外費	285,365	渉外費・慶弔費
町会会費	1,590,600	会員数 370名	担 当 会議費	283,472	総会・定例会・部長会
区助成金	597,248	区助成金 205,228		備品費他	252,083
		リサイクル 240,520	防火防災部費	83,053	
		区報配布 151,500	防 犯 部 費	84,135	
預金利息	688		文 化 部 費	177,418	
雑収入	27,380		婦 人 部 費	397,817	
			青 年 部 費	30,000	
			交 通 部 費	75,280	
			衛 生 部 費	0	
			予備費及積立金		
			剩 余 金	1,009,002	次期へ繰越 1,009,002
合 計	2,677,625	今期実収入の合計 2,215,916	合 計	2,677,625	経費合計 1,668,623 実今期剰余金 547,293

積立金 ¥5,500,000

平成 16 年 6 月 5 日

平成 15 年度決算を上記の通り報告いたします。

町会長 三宅英三
会計 竹中俊之
監査 川村康明

平成 15 年度決算は監査の結果正確に処理されていることを証します。

平成 15 年度貸借対照表

自 平成 16 年 4 月 1 日～至 平成 17 年 3 月 31 日

(単位：円)

借 方 の 部		貸 方 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	100,000		
銀 行 預 金			
	普通預金 3,645,937		
	定期預金 2,763,065	積 立 金	5,500,000
	計 6,409,002	前 期 繰 越 金	461,709
未 収 入 金	0	当 期 剩 余 金	547,293
仮 払 金	0	未 払 金	0
合 計	6,509,002	合 計	6,509,002

平成 15 年度剰余金処分案

蓬 萊 町 会

当期剰余金 1,009,002 (単位：円)

上記剰余金を下記の通り処分いたします。

記

町会積立金へ繰入 0
次期へ繰越金 1,009,002

平成 16 年 6 月 5 日

蓬 萊 町 会

町会長 三宅英三

町会積立金推移表

前期末現在積立金額 5,500,000

本案による繰入額 0

計 5,500,000

編集後記

世の中がこんなに目まぐるしく変わって来る事を誰が予想できたでしょうか。振り返って見れば家康が江戸に開府して四百年、それ迄の封建社会が解体して約一四〇年、特にいちじるしいのはこの四、五〇年の環境の変化です。そしてそれに伴う人情の希薄化です。最近、あちこちで旧町名の復活運動が話題になっていきます。「蓬萊町」という上品で目出度い名前が、もし復活することになったらとふと夢に見る昨今です。酷暑のおりから、会員の皆様のご自愛をお祈りします。

編集委員 三宅栄三 竹中俊之 常岡 裕
青木喜一 池田 暉